

■発行／京都府医師会

これだけは知っておきたい
健康の知識

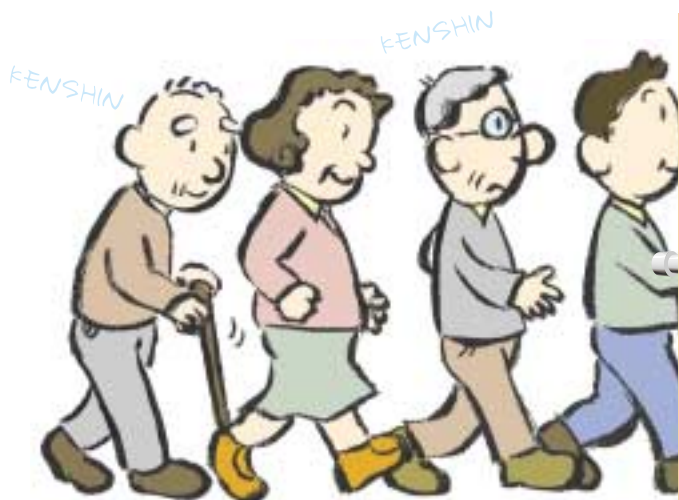
VOL.31

肝炎ウイルス検診を 受けましょう!

ウイルス肝炎の知識

「お酒を飲まないのに肝臓が悪くなったのはどうしてでしょう」とよく聞かれますが、日本では肝臓病の**70%以上は肝炎ウイルス**によるものです。

ウイルス肝炎とは肝炎ウイルスの感染によっておこる肝臓病で、現在わかっている肝炎ウイルスはA型、B型、C型、D型、E型ですが、日本に多いのはA型、B型、C型でD型、E型はほとんど見られません。



肝炎ウイルスの 検診事業!

ご存じですか

平成14年度から5年間、国の検診事業として40歳以上の国民は肝炎ウイルスの検診が受けられるようになりました。現在わが国での**B型肝炎ウイルス**の持続感染者は**150万人**、**C型肝炎ウイルス**の持続感染者は**200万人**と推定されていますが、慢性肝炎は自覚症状が殆どなく、症状が出てきたときには既に肝硬変や肝がんになっていることがあります。この検診事業は将来肝がん患者の減少に繋がる事業として期待されています。

検診を希望される方は
実施主体
(市町村もしくは保健所)に
おたずね下さい。



肝炎ウイルス検診の対象者

節目検診の対象者.....

40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の方

対象年齢については市町村によって異なりますので、詳しくは市町村、もしくは保健所におたずね下さい。

節目検診以外の対象者.....

- ①過去に肝機能異常を指摘されたことのある方。
- ②広範囲にわたる外科的処置を受けたことのある方
又は妊婦、分娩時に多量に出血したことのある方。

放っておくと怖い ウイルス肝炎

A型肝炎は経口感染(生水、生ものの摂取)によっておこり急性肝炎になりますが、慢性肝炎になることはなく殆ど治癒し再び感染することはありません。

B型、C型肝炎ウイルスの感染では持続感染がおこり慢性肝炎となり、将来進展して肝硬変、肝がんになることがあり、国民病として現在対策が急がれています。



B型 輸血や注射器の回し打ち、性行為など血液を介して感染する感染とB型肝炎ウイルスに持続感染している母親から出産時に血液を介して感染する感染があります。成人の感染は急性肝炎となって殆ど治癒しますが、3才児未満で感染すると持続感染者になり、そのうち約10%では慢性肝炎、肝硬変、肝がんに進展することがあります。

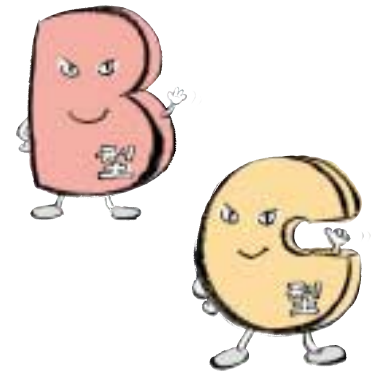
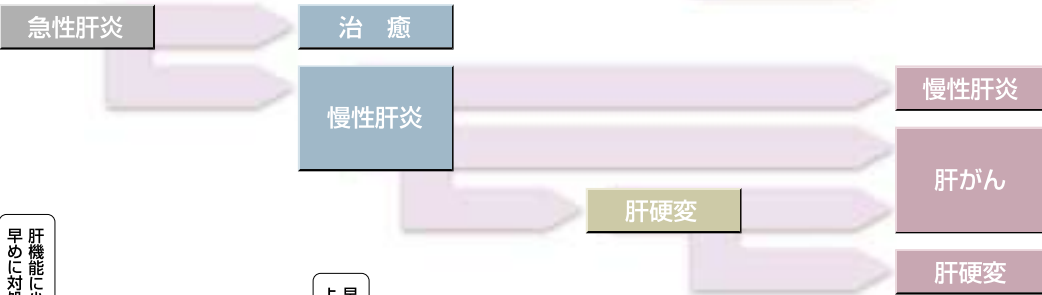
C型 輸血、血液製剤、注射器の回し打ち、刺青など血液を介して感染します。C型肝炎ウイルスは感染力が弱く母子感染や性行為での感染はまれにしか起こりません。感染すると急性肝炎から治癒する場合と慢性肝炎へと移行し、肝硬変、肝がんへと進行する場合があります。

ウイルス肝炎の自然経過

B型



C型



肝機能に少し異常がみられますね。早めに対処しましょう。

早く見つかってよかった！



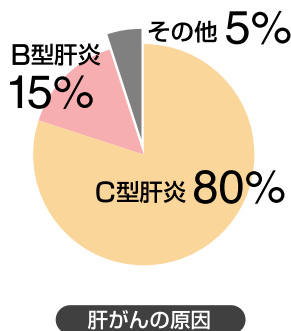
慢性肝炎の診断と治療

診断 肝臓は「沈黙の臓器」といわれほとんどの慢性肝炎では自覚症状はありません。健康診断や、献血、他の病気の時に肝機能検査の異常や、肝炎ウイルスの検査によって指摘される事がほとんどです。肝臓の細胞の破壊を示す血液検査値（GOT、GPT）の上昇、慢性肝炎の後期や肝硬変では減少する血小板の値が有益な検査になります。また、超音波やCTなどの画像診断が肝がんの早期発見には必要な検査として使われます。必要な場合には肝臓の組織の変化を見るための検査（肝生検）を行うこともあります。

治療 慢性肝炎の治療は原因となっている肝炎ウイルスを血液中から排除する目的でインターフェロンが中心になっていますが、約30%の人にしか効果がありません。しかし、最近ではインターフェロンと抗ウイルス剤との併用によって改善が期待できたり、インターフェロンの治療もウイルス量を減少させる目的で長期間にわたって使用できる事になり、肝硬変への進展を抑制できる可能性ができています。

肝がんについて

肝がんは年々増加傾向であり、現在がんによる死亡者の第3位をしめています。肝がんの約95%が肝炎ウイルスが原因でそのうちC型肝炎ウイルス感染者は80%、B型肝炎ウイルス感染者は15%であることがわかってきました。



慢性肝炎患者の日常生活の注意事項

ウイルス肝炎は原因がアルコールではありませんが、飲酒は既に慢性肝炎になっている肝臓病を悪化させるので避けるようにしましょう。食事は特に注意することはありませんが、栄養のバランスを考えた食事を規則正しくとることが大切です。

